

YOUTH REPORT

VOL.
5

ナガサキ・ユース代表団2017 活動レポート



**FOLLOW PEACE
MAKE PEACE**

第5期生メンバーによる活動のごく一部を紹介します!

THE CHALLENGE REPORT OF YOUTH MEMBERS

「ナガサキ・ユース代表団」の挑戦



肩書き、学年は2017年10月時点のもの

2017 MEMBERS
ナガサキ・ユース代表団
第5期生メンバー



光岡 華子
(長崎大学教育学部4年)



山田 ゆり
(社会人)



酒井 環
(長崎純心大学比較文化学科2年)



西垣 あすか
(長崎大学医学部3年)



片山 桂維
(長崎大学教育学部3年)



立石 丞
(長崎県立大学
国際情報学部4年)



北里 友佳
(長崎大学多文化社会学部3年)



福井 敦巳
(長崎大学多文化社会学部2年)



野村 梨紗
(長崎大学多文化社会学部2年)

出発前 BEFORE DEPARTURE



学び手から語り手へ

72年前、広島・長崎に原爆を投下した2機の爆撃機の両方に搭乗していたジェイコブ・ビーザーさんの孫である、アリ・ビーザーさんに語りの手法についてのワークショップを行って頂きました。長崎の街を実際に歩きながら撮った写真を通して想いを発信するという具体的な手段から、趣味や特技を活用して自分の想いを伝える方法を教わりました。それを通して私たちは、誰もがStoryteller(語り手)になれると学びました。身近な家族や友達だけではなく、多くの人への「伝え方」について考える機会となりました。(野村 梨紗)



72年前の “あの日”を知る

被爆の実相をより詳しく知るため、広島へ行き、在日コリアンの方の被爆体験講話や、ボランティアの方による平和ガイド、広島平和記念資料館の見学をしました。この研修で、同じ「被爆地」でも、様々な違いがあることを知りました。学ぼうとすればいくらでも学べることがあり、見えるものだけが全てではないと身をもって感じました。様々なことを吸収し、伝えたいけど、今後の活動への意欲が高まりました。(山田 ゆり)



英文テキストで学ぶ 核問題



英文テキストを用いて、NPTが作られた背景や、核兵器保有国と非核兵器保有国との間にある問題など、過去から現在の核問題に至るまであらゆることを学びました。日本語でさえ難しい内容を英語で理解するのは大変でしたが、その甲斐あって国際会議での傍聴は非常に有意義な時間となりました。また、各国政府代表団の方と一緒に踏み込んだ対話をすことができました。(山田 ゆり)

ウィーンでの活動

ACTIVITIES IN VIENNA

歴史の目撃者になれ！

核情勢の今後を方向づける議論が目の前で繰り広げられる毎日はドキドキです！核兵器禁止条約の制定に向けた議論が進む一方、核をめぐる情勢は緊張感を増す中、各国は何を語るのか？メンバーは議論を真剣に見守ります。会場では、テレビやネットのニュースや新聞だけでは分からない核軍縮・核不拡散の最前線を学ぶことが出来ました。（福井 敦巳）



世界との ネットワークを築く

会議場ではたくさんの出会いがあります。メンバーはそれぞれ興味のある政府の方に直接話しかけ、質問やお話をさせていただきました。また、ドイツから会議に参加していた若者と意見交換の場も設けていただき、白熱した議論が行われました。普段、なかなか出会えない人たちと繋がれるのも会議場にいるからこそです。（西垣 あすか）



平和出前講座海外進出!! ウィーン日本人学校編

5月5日には、ウィーン日本人学校において、平和出前講座をさせていただきました。ウィーンに住む子どもたちを対象に長崎の被爆の実相や核兵器の現状を知ることで、核問題は過去のことや他人事ではなく、自分たちに関係のあることであると感じたようでした。BB弾を用いて現存する核兵器の数を表す部分では、「こんなに核兵器があったら世界が滅んでしまう。」という感想や「そこにいた人たちはもっと怖かったんだろう。」という主観的な感想も得ることができました。今回授業をさせて頂いて、子どもたちが平和のためにどうすればよいか本気で考える姿を見ることができ、とても有意義な時間になりました。（片山 桂維）



想いを国連で発信！

会議期間中、政府間会議と並行して、NGO等が主催する多種多様なイベントが毎日のように行われます。ユースメンバーは、プレゼンテーションの機会を得ました。

5月10日には、ナガサキ・ユース代表団の自主ワークショップ「なぜ、若者の活動は重要か?~日本人学生と韓国人学生から~」を開催。各国から政府関係者、NGO、専門家、若者の参加がありました。主なテーマは日中韓の若者を含む市民の核問題に対する姿勢でした。事前に日中韓の大学生に原爆投下に対するアンケートを取ったところ、日本人は「多くの罪なき命が奪われた。」、中国・韓国人は「日本の侵略から解放された。」と捉えており、日中韓で認識の違いが見られました。

今回のワークショップでは、様々な分野の専門家の方から意見をいただくことができ、市民活動が核軍縮にもたらす重要性について多角的に考えるきっかけとなり、今後の活動に生かすことができています。(立石丞)



帰国後

AFTER THE TRIP



Peace Caravan

ウイーンで感じたこと、学んだことを伝えたいという想いが強くなり、4期生から引き継いだ平和教育の出前授業を行うPeace Caravanをその実践の場として選びました。

5月から9月にかけて、長崎県内にとどまらず、大阪府や北海道など日本各地の16か所で1,457名に対して講演会や授業を行うことができました。昨年は高校生を主な対象としましたが、今年は小中学生や一般市民へと対象の幅が広がりました。核兵器の問題を“自分事”として捉えてもらうために、現在や未来に焦点を置き、聴覚的・視覚的な教材やディスカッションを取り入れた、ユースならではの授業を展開しました。(光岡 華子)

平和首長会議での新たな挑戦

核兵器の廃絶を目指す平和首長会議。日本では約95%の都市が加盟し、世界中の7000以上の都市によって構成されています。4年に一度、広島長崎の平和記(祈)念式典に合わせて総会が開かれ、世界中の自治体首長が集まります。

2017年は長崎大学中部講堂が会場となりました。新たな試みとして、自治体首長と若者とのコラボレーション企画に挑戦し、担当の加盟都市に合った平和活動を提案しました。今、それらが実際に世界の都市で実践されようとしています。(北里友佳)

繋げよう！広げよう！ ～ユースの輪～

帰国後も様々な場所、分野でアウトプットできる活動の機会があります。インプットにとどまらず、誰かに伝える、報告することでより自分たちの学びを身に着けることができます。それぞれの団体、分野との繋がりを広げていくことも、ユースの知名度上昇や活動の幅を広げるための良い機会です。(酒井 環)

Q1. ナガサキ・ユース代表団って何?



A. 長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」(PCU-NC)が主催する人材育成プロジェクトです。2013年に第1期生の活動が始まりました。次世代を担う長崎の若者が、核や平和の問題を実践的に学び、この分野で活躍する国内外の人々と出会うこと、自ら考え、行動する力を身に付けることをめざしています。

2017年度は、公募で選ばれた9名の長崎の大学生及び社会人がウィーンの国連事務所で開催された「2020年核不拡散条約(NPT)再検討会議第1回準備委員会」(右ページ囲み参照)への参加を中心に、様々な活動を行いました。

Q2. 誰が応募できるの?



A. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・院生、および同程度の年齢の若者です(18~25歳を目安)。高校生(応募時)は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、本プロジェクトの活動を通して、こうした分野での知識や経験を得たいと希望する若者、公式の活動期間が終了した後もなんらかの形で「核兵器のない世界」の実現のための活動にかかるわっていく意思のある若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、活動に求められる知識を得るために勉強会や、企画、準備のためのミーティングに原則参加可能であることが求められます。



Q3. 費用は誰が負担するの?

A. 活動にかかる費用の一部をPCU協議会が活動支援金として拠出します。2013年~17年の場合は、国際会議への参加にかかる旅費・滞在費として、一人あたり一律20万円が支給されました。不足分が出た場合は個人負担となります。

Q4. 誰がメンバーを選ぶの?

A. 選考は2段階で行われます。1次審査は志望動機などが書面審査されます。2次審査は英語による面接です。第5期生2次審査の選考委員は以下の通り(肩書きは当時)。調漸(核兵器廃絶長崎連絡協議会会长長、長崎大学学長特別補佐・副学長)、ブライアン・バークガフニ(長崎総合科学大学教授)、コンペル・ラドミール(長崎大学多文化社会学部准教授)、鈴木達治郎(長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)センター長)、中村桂子(RECNA准教授)。

QUESTIONS

ナガサキ・ユース代表団 に関する7つの質問

Q5. 核問題を専門的に勉強していなくても大丈夫？



A. 大丈夫です。選考後の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢までを幅広く学ぶ機会があります。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の教員に加え、国内外の専門家を招いた講義やワークショップも開かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。第5期生の場合は、選考からウィーン出発までの間に、10回以上の勉強会と、数回の集中講義を受講しました。

Q7. 帰国後の予定は？



A. 長崎で活動報告会を行った後は、8月末の任期終了まで、一連の活動を通じて得た知識や国内外の人々とのネットワークを活かした活動を幅広く展開していきます。全国で平和教育の出前講座を行う Peace Caravan はそうした活動の一つです。任期終了後の活動は「ナガサキ・ユース代表団」メンバーとしての義務ではありませんが、一人一人が自分の経験を活かし、何らかの形で核問題にかかわっていくことが奨励されます。実際、ユースメンバーに対しては、一年を通して交流や講演、取材の依頼が多数舞い込みます。また、核兵器廃絶長崎連絡協議会や RECNA が主催する核問題のセミナーやシンポジウム、様々なイベントに参加することで、さらに知識を増やし、経験を積んでいくことが可能です。

Q6. 現地の活動内容は？

A. 大原則は、「自分たちのプログラムは自分たちで創る」です。第5期生が参加したNPT準備委員会には、各国政府代表だけでなく、世界各地から国際機関やNGOの関係者、専門家、大学生などの若者世代が多数集まり、政府の会議と並行して毎日さまざまな会議やワークショップなどを開催しました。ユース代表団のメンバーは、それらに参加するだけでなく、国連内の会議室を使って自主ワークショップを実施しました。各国の外交官との意見交換や国際機関や現地の大学への訪問なども行いました。こうした活動は、SNSを通じてリアルタイムに情報発信され、多くの人々に共有されます。参加者一人一人が自分の興味や関心、目標に沿って、オリジナルの現地活動プランを立てていく、というのがナガサキ・ユース代表団の活動の醍醐味と言えるでしょう。

「2020年NPT再検討会議 第1回準備委員会」って何？



1970年に発効した「核不拡散条約(NPT)」は、その名前の通り、核兵器保有国が増えることを防ぐために作られた条約です。条約締約国は191か国(2003年に脱退表明した北朝鮮を含む)で、インド、パキスタン、イスラエルの3か国は加入を拒否しています。

NPTでは、米、ロ、英、仏、中の5か国を「核兵器国」、それ以外を「非核兵器国」と定め、前者には核軍縮に向けた交渉を誠実に行うことを求め、後者には核兵器の開発や取得を禁じています。また、条約締約国には「原子力の平和利用」(原子力発電など)の権利が認められています。

条約で定められた義務がきちんと守られているかを検討するため、5年ごとに開かれる会議が「再検討会議」です。次回2020年の再検討会議に向けて、2017年から3回の準備委員会が開かれ、各国政府代表が意見を交わします。来年2018年はジュネーブで2回目の準備委員会が行われます。

OG&OB VOICE

4期生
川崎 有希

(長崎大学教育学部4年)



「もっとこうなったらいいのに」「こんなことしてみたい」という想いを、「どうせ無理だろうな」と諦めていますか?ユースは、仲間と共に行動を起こし、想いや夢の現実に向けて挑戦することができる場です。私は、平和教育に関して問題意識を持つ仲間達と共に『Peace Caravan』という企画を立ち上げるという行動を起こし、これまで2年間の実践で28校の約3,120人に授業を届けることができました。このようにユースには、自分次第でどこまでも挑戦することができる機会が用意されています。一步踏み出せば、何かが変わるかもしれない。あなたも、ナガサキ・ユース代表団の一員になってその可能性に挑戦してみませんか?

3期生
荒倉 由佳

(長崎大学医学部5年)



平和、原爆、核問題、安全保障。興味や大切だという認識はあるけれど、どこか捉えどころがなく、確かな実感がない。私達も以前は多かれ少なかれ同じ感覚を持っていました。しかしユースの活動を通じて、歴史と世界情勢を知り、人々の想いに触れ、時に試行錯誤を繰り返し、この世界は誰かのものではなく自分たちが創っていくものだという感覚が芽生えました。

ここにはともに走ってくれる同期や、海の向こうで答えてくれるまだ見知らぬ仲間がいます。自ら行動を起こせば、何かが変わります。自分の将来を、世界の明日を、あなたのその一歩で共に創っていきませんか?

■ 編集発行責任

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

※PCU-NCは、長崎県、長崎市、長崎大学の3者による核兵器廃絶のための協議会。

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council



3期生・4期生
佐々木 朋哉

(長崎大学工学部4年)



ユースでは体系立てて基本的な核問題や世界情勢を学びます。幅広い考え方方に触れてメンバーと一緒に議論することで考えが深まっていきます。正解が正解でなくなり、選択肢が増えて迷路になっていき、本来の世界がだんだん見えてくるようになります。

そんな中で自分たちなりに考えて『何かをやる』のがユースの醍醐味です。学びの場ではなく“実現の場”として自分なりに表現してみて下さい。答えがないことにどう取り組むかということに価値があるんだと思います。

考え方はたくさんの選択肢があります。しかし、現実は『やる』か『やらない』かです。あなたは『やる人』ですか?『やらない人』ですか?どちらの選択をするもあなたの自由です。

3期生・4期生
秀 総一郎

(長崎大学多文化社会学部4年)



ユースは人材育成プログラムです。核問題を勉強するだけではなく、プレゼンのスキルや英語も上達することもできます。主体性、積極性さえあれば可能性は無限大です。皆さんも、ユースの活動を通して大きく成長し、自分の可能性を広げていってください!

(所属は平成27年度現在)

「ナガサキ・ユース代表団」公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/nagasakiyouth>



ナガサキ・ユース代表団

■ お問い合わせ先

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14
(長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)内)

TEL: 095-819-2252 / FAX: 095-819-2165
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/pcu/>

